

第45回水資源機構契約監視委員会 審議概要

開催日及び場所	令和元年6月24日(月) 機構本社 会議室	
委員	篠原焯夫(弁護士)、毛利栄征(大学教授)、清水義彦(大学教授)、山梨恵子(水資源機構監事)	
審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度第4四半期の1者応札の状況について 2. 平成30年度第4四半期における1者応札・1者応募に関する点検について 3. 平成30年度第4四半期における随意契約に関する点検について 4. 平成30年度独立行政法人水資源機構調達等合理化計画自己評価及び令和元年度計画(案)について 	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度第4四半期の1者応札の状況について 2. 平成30年度第4四半期における1者応札・1者応募に関する点検について 	委員	機構事務局
	<ul style="list-style-type: none"> ・1者応札で受注者が集中しているという現状を説明されたが、そのことに対して何か指導はしているか。 ・資料1を見ると平成30年度の1者応札が過去最大となっているが、特に第4四半期が大きいわけではなく年間を通して大きいと言うことか。 ・資料3を見ると、1者応札の原因について、毎回同じような理由が並んでいるということ自体、閉塞感があるという風を感じている。例えば技術者の確保が難しいと言うのは具体的にどういう技術者が不足しているのか分析をしているか。 ・公共事業全般にわたって 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般競争入札で受注者を決めており、各社の意思で競争参加しているのでコントロールすることはできません。結果的に1者応札となり、受注者が集中してしまっているということです。 ・一般競争入札の数は、昨年度と比較して69件増えているのですが、それを上回る1者応札数の増加となっています。理由としては、複数年契約で発注していた設備系の点検業務が平成30年度に契約終了し、平成31年度からの業務を発注した件数が多かったことも要因の1つと考えられます。 ・入札参加条件のところには複数の資格が記載されていますが、具体的にどういう資格を持った技術者が不足しているのか把握できていません。今後、不足している具体的な資格を把握することにより、緩和できる資格がわかれば1者応札を減らすことができる可能性もあると思います。 ・そう思います。特に電気設備や機

	<p>維持管理的な工事が増えてきているから1者応札も増えてきていると考えて良いか。</p> <p>・1者応札の原因をたくさん記載しているが、これを少し分類して欲しい。</p>	<p>械設備といった業務は、既設の納入業者や経験を持った者が有利ですし、また、電気や機械の分野で人手が不足しているあるいは若い人が育ってきていないという傾向も関係しているのではと考えております。</p> <p>・次回の委員会では5つくらいの項目に分類し、それぞれの割合を整理して示せるようにしたいと思います。</p>
<p>3. 平成30年度第4四半期における随意契約に関する点検について</p>	<p>・漏水事故などの緊急案件において、災害協定を結んでいる社にお願いしたとあるが、災害協定を結んでいる社は複数社あると思う。何故その社を契約の相手方を選んだのか。また、普段から維持管理をしっかりやっていたにも拘わらず、突発的な事故であるということも分かり易く記載してもらいたい。併せて、漏水の程度やその漏水によってどの程度の被害が生じるのか記載してもらいたい。漏水なら全部緊急というような論調で書かれているので申し上げた。</p>	<p>・状況等によりケースバイケースですが、まずは連絡をとることから始めて、実施可能業者を当たるということになります。また、緊急の適用に当たっては、誤解のないよう単に漏水等の事象のみではなく、状況も併せて記述するようにして、第三者が見ても理解していただけるような整理を心がけていきます。</p>
<p>4. 平成30年度独立行政法人水資源機構調達等合理化計画自己評価及び令和元年度計画（案）について</p>	<p>・特段の意見なし</p>	

○問い合わせ先

埼玉県さいたま市中央区新都心11番地2

ランド・アクシス・タワー内

電話 048-600-6500

水資源機構契約監視委員会事務局

技術管理室契約企画課長

宮前 武利（内線 2251）

技術管理室技術調査課長

松尾 誠（内線 4631）